

國立臺灣大學藝術史研究所と金沢大学の学術交流

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/17017

國立臺灣大學藝術史研究所と金沢大学の学術交流

佐々木 達夫

国立台湾大学 National Taiwan University は1945年に設置された台湾台北市に本部を置く中華民国（台湾）の国立大学である。前身は1928年日本統治時代に設立された台北帝国大学であり、1945年11月15日に中華民国政府により現在の名前に変更された。中華民国（台湾）では最難関の大学と言われ、ノーベル賞受賞者を一人輩出する研究教育大学である。現在は13学院（学部及び研究科）、53学系（学科）、99研究所（専攻）、48研究中心などと夜間部を擁し、3万人を越える学生が在籍している。

台湾大学藝術史研究所の謝明良所長と金沢大学佐々木は同じ考古学を専攻し陶磁器研究を専門分野としており、以前から互いの論文や著書、大学紀要等の交換を行う学術交流を続けていた。日本や韓国で中国陶磁器の研究に関する研究交流も行っていた。金沢大学考古学の高浜教授と同じ青銅器を研究する陳芳妹教授も台湾大学藝術史研究所に在職しており、台湾で青銅器研究に関する学術交流を行ったこともある。坂井隆助教授は佐々木と同じ陶磁器を中心とする考古学研究分野の日本人教員で、東南アジアや日本の陶磁器研究を続けている。台湾大学と金沢大学は考古学研究分野以外の他分野でも教員の学術交流や留学など学生間の交流が期待されるため、台湾大学藝術史研究所と金沢大学との交流を進める大学間交流協定の締結に向け、協議を行うこととなった。

金沢大学と交流する中心的な組織は文学院に所属する藝術史研究所（1989年前期課程設置、2000年後期課程設置）である。毎年2回、『国立台湾大学美術史研究集刊』を刊行しており、日本語は前期後期共に必修科目である。藝術史研究所教員数は11名、大学院学生数は50名（前期36名、後期14名）で、教員の専門領域は次のとおりである。専任は謝明良特聘教授：中国工芸美術史、中日陶磁史、中日芸術交流史。陳葆真教授：中国古代絵画史、中国絵画理論史、敦煌仏教芸術史。陳芳妹教授：中国青銅器研究、北アジア芸術史。黃蘭翔副教授：アジア建築史。坂井隆助教授：東南アジア考古学、東南アジア美術史。兼任は石守謙教授：中国元明絵画史、美術史学史、台湾前近代

美術史。顏娟英教授：台湾近代美術史、中世仏教芸術史。李玉民教授：中国仏教芸術史、インド仏教史。傅申教授：書画鑑定、中国書道史、書道理論史、近代絵画史。刑義田教授：中国古代史、中東古代史。林聖智助理教授：中国美術考古、中国絵画史である。

国立台湾大学藝術史研究所と金沢大学人間社会環境研究科の部局間交流に係る協議及び学術研究交流会のため、2008年11月5日、台湾から6名が小松空港に到着し金沢に宿泊した。謝明良特聘教授（台湾大学藝術史研究所長・教授、中国陶磁史、成城大学博士号取得）、顏娟英教授（国家科学委員会人文部芸術部門代表委員、中央科学院歴史語言研究所研究員、国立台湾大学藝術史研究所兼任教授、台湾美術史・仏教芸術、ハーバード大博士号取得）、坂井隆（台湾大学藝術史研究所助理教授、東南アジア考古学、上智大学地域研究博士号取得）、吳方正（国家科学委員会人文部芸術部門委員、国立中央大学芸術研究所所長、西洋美術史、フランスにて博士号取得）、白適銘（国立台湾師範大学芸術学部助理教授、中国芸術史、京都大学博士号取得、台湾大学藝術史研究所卒業）、陳育芬（国家科学委員会人文部事務局主査）の6名である。

11月6日午前、台湾側6名は金沢大学を訪問され、当日は金沢大学ゲストハウスに宿泊し、翌日は金沢城や兼六園を見学した。6日は10時から人間社会2号館第2会議室で国立台湾大学藝術史研究所と金沢大学人間社会環境研究科の交流協定締結に係る協議を行った。金沢大学側出席者は井上英夫金沢大学大学院人間社会環境研究科長、柴田正良前人間社会環境研究科長、佐々木達夫人間社会学域人文学類教授、高浜秀人間社会学域人文学類教授、古畑徹人間社会学域国際学類教授、西谷公作角間北地区事務部長、上口大介角間北地区学生課長、西谷玲子角間北地区総務係長である。佐々木の司会で井上英夫人間社会環境研究科長の歓迎挨拶、顏娟英国家科学委員会人文部芸術部門代表委員の訪問挨拶及び謝明良台湾大学藝術史研究所長の交流に関する挨拶、さらには出席者全員が自己紹介した。佐々木から両機関の教員を中心とする交流実績等についての説明があり、学生を中心とした今後の交流内容につ

いて事務方の意見を含めて協議した。

11 時 30 分、台湾側 6 名は井上、佐々木、高浜、古畑とともに事務局特別会議室を訪れ、中村学長を表彰し、長野理事・副学長、千葉研究国際部長、坂下学術国際課長と大学間交流について歓談した。12 時 5 分、自然科学系図書館 2 階の「すみれ亭」で昼食後、13 時から図書館会議室に移り櫻井理事・副学長と大学間協定と両大学の協力関係等について懇談した。13 時 30 分に金沢大学資料館で開催中の特別展「うけつがれた『モノ』たち」（第四高等学校や石川県師範学校などで使用された掛け図など）を見学した。

14 時から中央図書館 AV 室で学術研究交流会を開催し、台湾大学側は謝明良特聘教授「台湾出土の 17 世紀の貿易陶磁」（日本語）、顔娟英教授「戦後台湾の水墨画」（英語）、坂井隆助理教授「インドネシア、トロウラン遺跡と南・西アジア」（日本語）、金沢大学側は佐々木達夫「唐宋時期東亞和西亞的窯業交流」、高浜秀「西周～南北朝時代の中国北方の鍔について」、酒井中（金沢大学人間社会環境研究科博士後期課程）「ポリネシア文化起源としての台湾」の研究発表があった。それらのうち、謝明良、顔娟英、坂井隆、酒井中の 4 氏発表は、学術交流の成果として金沢大学考古学紀要 30 号の本号に掲載している。

17 時 30 分から北福利施設で両大学の交流懇親会を開いた。佐々木の司会で、長野勇理事（研究・国際担当）・副学長の歓迎挨拶、櫻井勝（情報担当）・副学長の乾杯発声、台湾から金沢大学へ留学中の学生紹介等が続いた。参加者は、台湾側訪問者 6 名、金沢大学側は長野勇（金沢大学理事・副学長）、櫻井勝（金沢大学理事・副学長）、井上英夫（金沢大学人間社会環境科学研究科長）、柴田正良（金沢大学前人間社会環境研究科長）、大滝幸子（金沢大学中国語学教授）、森雅秀（金沢大学仏教美術史教授）、高浜秀（金沢大学考古学教授）、佐々木達夫（金沢大学考古学教授）、上口大介（金沢大学北地区事務部学生課長）、西谷玲子（金沢大学北地区事務部総務課総務第一係長）、野上建紀（金沢大学博士後期課程修了考古学・博士文学）、酒井中（金沢大学人間社会環境研究科博士後期課程考古学）、八木聡（金沢大学人間社会環境研究科博士後期課程考古学）、ナン・チー・カイ（金沢大学人間社会環境研究科博士後期課程考古学）ミャンマー国費留学生、蔡文萱（金沢大学 KUSEP、台湾・政治大学法

学院修士課程）、張藝懷（金沢大学 KUSEP、台湾・政治大学法学院修士課程）、邱亭綺（金沢大学 KUSEP、台湾・台湾師範大学学生）である。学生留学の諸条件整備も話題になった。

なお、國立臺灣大學藝術史研究所と金沢大学大学院人間社会環境研究科の交流協定に関する基本的な合意書は 2008 年 11 月に発効したので以下に日本語のみの内容を記載する。当該協定は日本語・中国語で交わされた。

金沢大学大学院人間社会環境研究科と國立臺灣大學藝術史研究所との合意書

金沢大学大学院人間社会環境研究科（日本国金沢市）と國立臺灣大學藝術史研究所（台湾台北市）は、学術及び教育上の交流を促進することについて、以下の項目について合意する。

1. 両大学は、相互理解と親善の精神をもって協力し、友好の絆を深めることを合意する。
2. 両大学は、相互の緊密な協力により、教員及び学生の交流並びに、学術文献の交換を行うこととする。さらに、共同研究等広く学術及び教育上の交流を推進するものとする。
3. この合意により、直ちにいかなる資金の確保がなされるものではないが、両大学は、可能な限りにおいて共同事業を支援するものとする。事業や活動への参加経費は、別途合意がなされない限り、原則として、各々が負担するものとする。
4. この合意の具体的な事業や活動の実施については、両大学で協議し合意するものとし、必要に応じて双方の適当な代表者により覚書を作成するものとする。
5. 以上の活動を通じて、両大学は、両国の友好と親善を促進し、両国の学術文化の発展に寄与するものとする。
6. 本合意書は締結の日から 5 年間有効とし、その後は一方の大学から書面により、中止又は内容の変更の意思表示がなければ、存続するものとする。
7. この合意書は、日本語二通及び中国語二通を作成し、ともに等しく効力を有するものとする。

金沢大学人間社会環境研究科長・國立臺灣大學藝術史研究所長